

食料・農業・農村政策審議会
平成30年度 第2回果樹・有機部会

関係者ヒアリング 御出席者

1. たじま農業協同組合（JAたじま）担い手支援課長
谷垣 康 氏
2. ヤマキ醸造株式会社 代表取締役
木谷 善光 氏
(補足説明)
同社 取締役 木谷 真美 氏
3. 株式会社むそう商事 品質管理部
里上 綾乃 氏
4. 株式会社イトーヨーカ堂 青果部
セブンファーム開発担当チーフマーチャンダイザー
久留原 昌彦 氏

(以上)

たじまに生きる
たじまを活かす

コウノトリ育むお米の GLOBAL G.A.P.および有機JAS グループ認証取得について



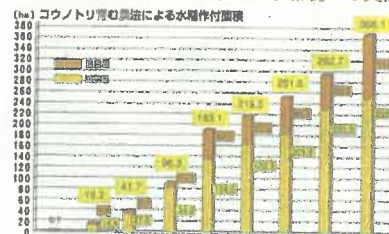
あらためてコウノトリ



なぜGAPに？

POINT3 貢献 Contribution

～このお米を食べること。それが環境への貢献活動になります～



「生物多様性の保全」。そう聞くと、とても大それたことのように聞こえますが、決してそうではありません。

私たちは環境に配慮した商品を購入することで、間接的に貢献活動に参加できるのです。

コウノトリ野生復帰の取組みの1つとして平成15年わずか0.7haの面積で始まった「コウノトリ育む農法」。

生産者の熱意により取組みの輪は広がり、平成28年には、366.1haに拡大し、約320名の生産者が丹精込めた米づくりを進めています。農岡では、たくさんの生きものが育まれた田んぼの広がりにより野生化で90羽を超えるコウノトリが舞い、かつての景色を取り戻しつつあります。

農薬や化学肥料に頼らない、手間暇かけて作られたこのお米。この取組みを支えていただいているのは、全国の大手量販店や百貨店をはじめとする事業者のみならず、そしてこのお米を食べていただく消費者のみなさんです。

米のブランド力強化

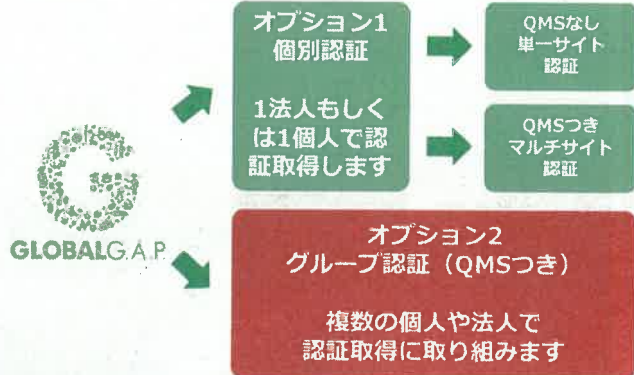
- ・ 試験輸出の継続（イタリヤ・シンガポール・ニューヨークなど）
- ・ 輸出に向けたG-GAP（グローバルギャップ）取得等の条件整備
- ・ さらなる食味の向上

2020年東京オリンピック選手村での使用を目指す！



私たちが取り組んだこと

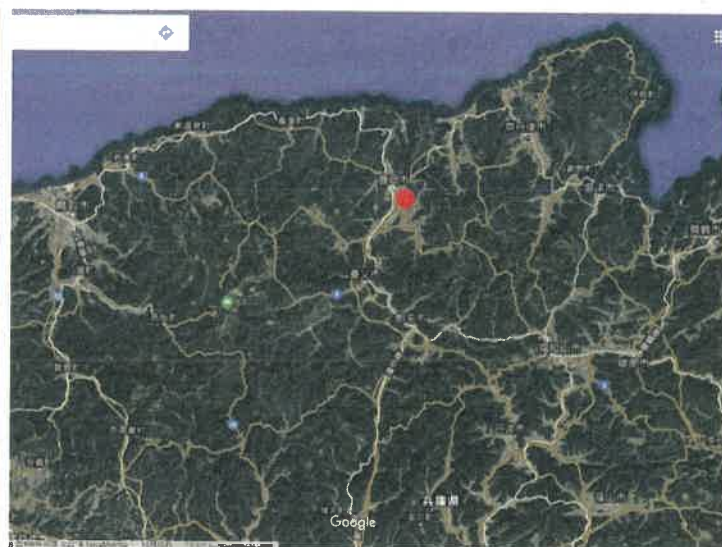
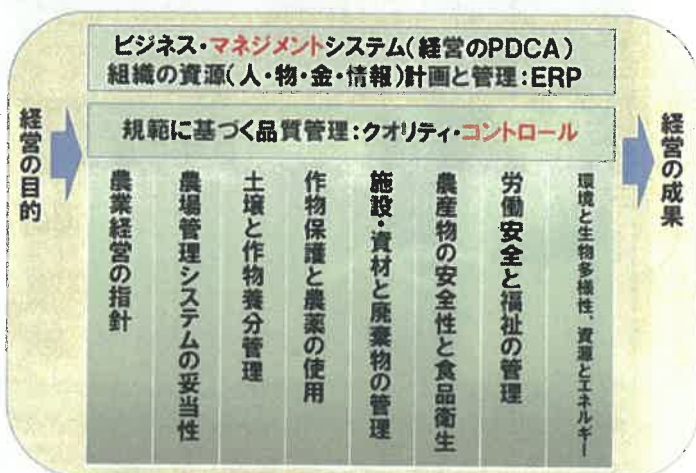
JAたじまでは、グループ認証を取得しました

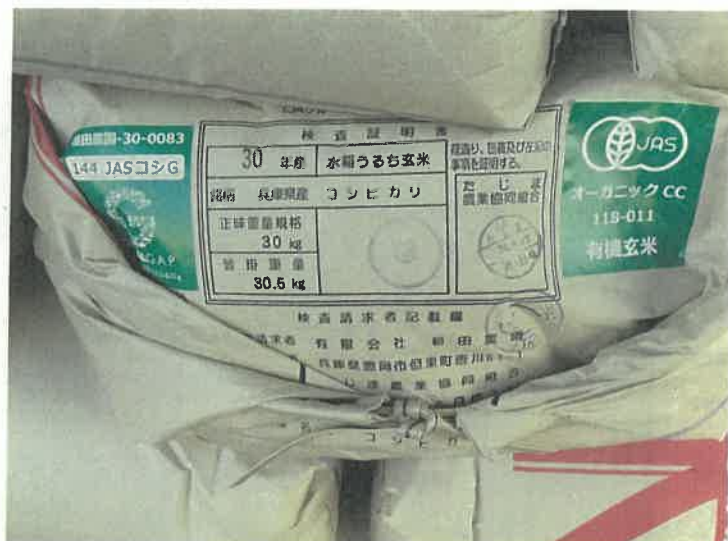


QMS=Quality Management System
「品質に関して組織を指導し、管理するためのマネジメントシステム」を意味します。いわゆる「本部機能」です。

農業のマネジメントと農場のコントロール

株式会社AGIC

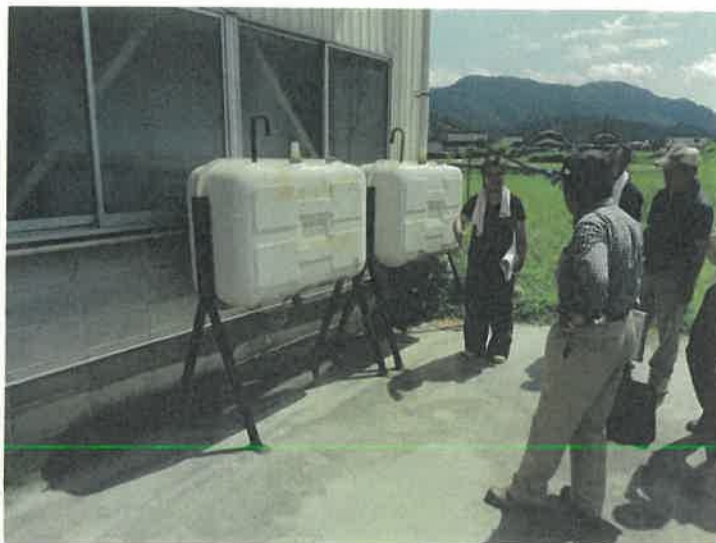




有機JASもグループで認証取得

組合員が新たな書類や記録を作ったものは基本的にありません

**グループ認証で良かったのは
みんなで解決できること
人数が集まると
「文殊の知恵」になります**

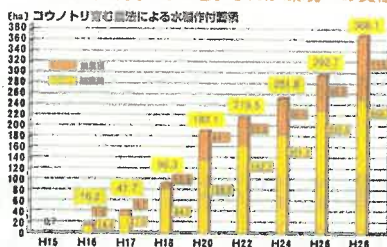




個別の農作業は
基本的に栽培暦に基づいたもの
各自の工夫は活かしている

POINT3 貢献 Contribution

～このお米を食べること。それが環境への貢献活動になります～



「生物多様性の保全」。そう聞くと、とても大それたことのように聞こえますが、決してそうではありません。

私たちは環境に配慮した商品を購入することで、間接的に貢献活動に参加できるのです。

コウノトリ野生復帰の取組みの1つとして平成15年わずか0.7haの面積で始まった「コウノトリ育む農法」。

生産者の熱意により取組みの輪は広がり、平成28年には、366.1haに拡大し、約320名の生産者が丹精込めた米づくりを進めています。

豊岡では、たくさんの生きものが育まれた田んぼの広がりにより野生化で90羽を超えるコウノトリが舞い、かつての景色を取り戻しつつあります。

農薬や化学肥料に頼らない、手間暇かけて作られたこのお米。

この取組みを支えていただいているのは、全国の大手量販店や百貨店をはじめとする事業者のみなさん、そしてこのお米を食べていただく消費者のみなさんです。



JAたじま

有機部会 2019年1月21日

株式会社むそう商事
品質管理部 里上 綾乃

© 2019 Muse Co., Ltd.



『有機のお茶からの残留農薬検出』

- ・有機茶の有機JAS認定機関、JONAの見解
「**有機認定は残留農薬ゼロを保証するものではない**」
- ・CCPAE (EUの有機認定機関の一つ)
「**微量検出でも認めない**」



2

© 2019 Muse Co., Ltd.

『EUの今後』

＜EU有機規定の変更＞
・将来的に**有機品の残留農薬の検出基準を設ける**。



・有機品に残留農薬が検出された場合の取り扱い
現在、結論は出ていない。

・2022年～2023年に再度議論
それまでは各国が対応。



『商社としての要望 1』

- ・EUや他国との残留農薬基準の差を埋める方向
にしていきたい。
- ・諸外国が問題視し、禁止や規制を進める
残留農薬基準の見直し。
- ・JETRO分析支援サービスの継続。

3

© 2019 Muse Co., Ltd.

4

© 2019 Muse Co., Ltd.

『商社としての要望 2』



- ・ EU、アメリカへ有機品を輸出する際の証明書の発行費用の引き下げを認定機関に促していただきたい。
- ・ 有機JASで海藻の認定基準を作っていただきたい。
- ・ ブラジル、韓国、台湾との有機JAS同等性を締結していただきたい。

(c) 2019 Misao Co., Ltd

5

『有機に携わる者としての希望』



- ・ 韓国のソウル市で2021年から小、中、高の給食が無償化され、しかも、有機給食になる。

・日本

主食の米だけでも、給食の有機化を進められるよう、国が自治体へ補助する仕組み等、作っていただければと願う。

(c) 2019 Misao Co., Ltd

7

『商社としての要望 3』



- ・ 同等国ではない国がNOP認定・EU認定等（同等国レベルの有機認定という意味）を取得すれば＝有機JASとして販売出来るようにしていただきたい。
- ・ 90%オーガニック、80%オーガニック等、有機の配合率を表示して販売出来るようにしていただきたい。

(c) 2019 Misao Co., Ltd

6